

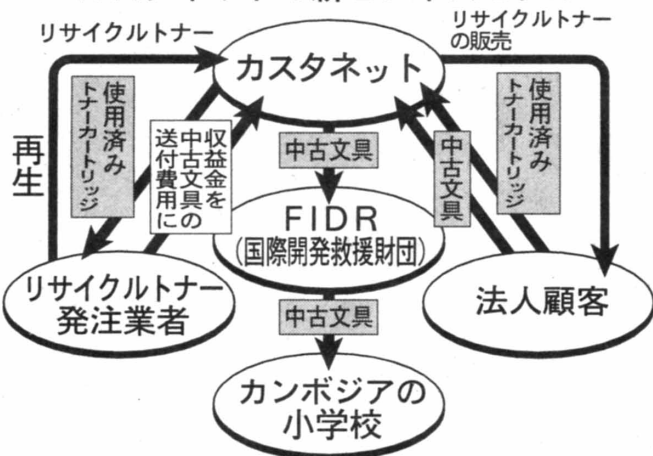
3者潤う新ビジネス

オフィス用品通信販売のカスタネット（京都市南区）は、リサイクルを助けたボランティア団体との連携で、支援との三者が潤う新しいビジネスモデルを開発した。カンボジアへの中古文房具寄贈とコピー機のトナーリサイクルを組み合わせたシステムで、同社は「みんながハッピーになる事業で、将来の大きな柱になる」と期待を寄せている。

同社は、今年四月から取引先の中古文房具を回収してカンボジアの小学校に国際開発救援財団（FIDR）を通じて寄付するボランティア活動を始めた。すでにボールペンや鉛筆など二万二千の文房具を回収した。七月からはコピー機のトナーの売れ行きが五割増の月間三百本程度売れるようになり、年内にも一千本程度の売り上げの

トナーのリサイクルで カンボジアに中古文具

カスタネットの新ビジネスモデル



手軽さ受け好評

伸びを見込んでいる。トナーは単価が高いため、利益も大きく、同社の期待も高い。取引先の法人顧客が、不要な文房具やトナーで気軽にボランティアにかかわれることが、ビジネスの成功につながったようだ。

植木力社長は「ボランティアとリサイクルを結びつける画期的なビジネスモデルと自負している。この取り組みは取引先にも受けがよく、カンボジアに継続的に文房具を送れるシステムができ」と話している。